

2020 vol.23

# こころの未来

KOKORO RESEARCH CENTER  
KYOTO UNIVERSITY

特集  
失敗するこころ



## ごあいさつ

自分が心理療法を専門としていることもあって、こころに関しては否定的なテーマ設定をしたほうが、その本質がよくわかるころがあると思う。今号の「失敗するころ」というユニークな特集テーマもそうであろう。巻頭言に続く座談会では、日本の組織が繰り返してしまう失敗や、政策の失敗のことが話題になったが、はからずも新型コロナウイルスへの政府の対応を見ていると、当てはまることが多いように思われる。それだけではなくて、相互監視をし合う日本人のあり方についても同じことが言えよう。座談会をしたときには、そのようなことはまったく意識していなかったが、このコロナ禍の状況と考え合わせて読んでいただくと幸いである。そして研究組織としても、なかなか人に直接会えなかったり、実験や調査ができなかったりという困難な状況の中からも、何かを学んでいければと思う。

2020年8月

京都大学こころの未来研究センター長 河合俊雄

こころの未来  
KOKORO RESEARCH CENTER  
KYOTO UNIVERSITY

2020 vol. 23

目次

ごあいさつ	河合俊雄
01 巻頭言 脳と、こころと、ヘソの下	黒川 清
〈特集 失敗するころ〉	
02 座談会 「失敗するころ」をめぐる	河合俊雄+広井良典+吉岡 洋
論考	
10 「失敗」に親しむ	吉岡 洋
14 あいちトリエンナーレ2019は「失敗」だったか?	小崎哲哉
18 パティ、おまえってやつは!	山極寿一
24 ヒューマンエラーと安全マネジメント——心理学の視点から	芳賀 繁
プロジェクト	
28 プロジェクト一覧 (2019年度)	
29 こころの思想塾	広井良典
30 現代アート、その〈こころ〉は?	吉岡 洋
31 こころ塾——医療および教育専門職を対象としたこころ学の講義	吉川左紀子
32 連携MRI研究施設における認知神経科学の教育事業の展開	阿部修士
33 組織文化とこころのあり方——日本における企業調査	内田由紀子+中山真孝+竹村幸祐
34 つながり・共生のメカニズムとこころの豊かさ	内田由紀子+竹村幸祐+清家 理
35 こころの豊かさとその逆説性——心理療法にみられるこころの変化とその波及	河合俊雄
36 気晴らしと攻撃性のメカニズム	河合俊雄
37 セルフの進化生物学	小村 豊
38 持続可能な医療・社会保障に関する研究	広井良典
39 シンギュラリティ後の生活者のこころのあり方について	広井良典+熊谷誠慈
40 ポスト成長時代の経済・倫理・幸福	広井良典
41 現代社会における〈毒〉の重要性	吉岡 洋
42 拡張された芸術学(Extended theory of art)	吉岡 洋
43 ケアの認知心理学	吉川左紀子+布井雅人
44 意思決定の認知科学	阿部修士
45 アジアと日本の精神性、幸福観、倫理観	熊谷誠慈
46 対人相互作用の心理・神経基盤	佐藤 弥
47 こころワールドマップの作成	上田祥行
48 こころが豊かになる環境の選択と構築と共感の心理	上田祥行
49 超高齢社会における現代日本の医療・保健・福祉にかかる倫理	清家 理
50 高齢者の幸福感と健康に関する心理・神経科学アプローチ	中井隆介
51 ポスト成長時代におけるこころの問題と変容	畑中千紘
52 Savoringの科学	柳澤邦昭
53 感動の社会・神経基盤の研究、および行動変容に及ぼす効果の検証	中山真孝
54 子どもの発達障害へのプレイセラピー	河合俊雄
55 SNSカウンセリングとコミュニティ支援	河合俊雄
56 鎮守の森とコミュニティ経済	広井良典
57 発達障害の読み書き支援・コミュニケーション支援	田村綾菜+小川詩乃+吉川左紀子
58 京都こころ会議	河合俊雄
59 眼球運動測定を用いた読字障がい児の音読における視線特徴の検討——読字障がい児の支援を目指して	菊野雄一郎
60 発達障害の認知機能障害と、心理社会的要因・身体環境的要因との関連の検討	後藤幸織+小川詩乃
61 高齢者の認知能力に及ぼす運動スキルの影響とその神経基盤	積山 薫
62 一般公募プロジェクト・アブストラクト	
63 The role of middle-managers' responsibility and opportunity-focused leadership mindsets for explaining their subjective well-being and health	Matthias S Gobel
64 The lay ritual traditions from eastern Tibet and the Nyen Collection (gNyan 'bum)	Daniel Berounsky
65 Cross Cultural Ensemble Perception	Allison Yamanashi-Leib
66 Effect of culturally shaped experiences on cognitive processing	SU-Ling Yeh
67 センターの主な動向(2019年4月~2019年9月)	
編集後記	

---

## 編集後記

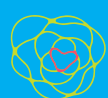
どんな意図で「失敗」特集を提案したのか？失敗を避けるためではない。むしろ、失敗と仲良くなるためである。でも、もしもそれを「失敗と仲良くなれば成功できる」と読まれてしまったら、うーん、この特集は「失敗」だったかな。(吉岡 洋)

「空気」や「村度」とともに「集団で一本の道を上る」という、昭和的な“成功体験”の残滓から自由になっていくことが、日本社会の中心的な課題と思う。「政策の失敗」の研究も重要だ。(広井良典)

COVID-19による不安が世界に広がる中、「失敗」について考えるという企画にはハッとさせられた。「〇〇のせいだ」という原因帰属をしているだけではよくならない、という臨床場面についての河合教授の言葉は、今の世界の状況にもよく当てはまるだろう。(内田由紀子)

「私、失敗しないので」を決めゼリフにした人気ドラマがありました。医療の世界ではそうであるべきですが、本誌の特集によって、失敗が人間の文化をいかに豊かなものにしているかに気付かされました。(原 章)

---



京都大学 KOKORO RESEARCH CENTER • KYOTO UNIVERSITY  
こころの未来研究センター

